

報告事項 1

●平成25年度事業実施報告（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

平成25年度の協会運営は、平成25年の定時社員総会で承認された事業計画と予算に則り、公益社団法人として、代表理事会長・理事副会長のもと理事会の執行機関として8つの「委員会」を設置し、各「委員会」ごとに責任を持って事業を推進し、全体を調整する機関として「総括運営委員会」を置き、当協会の理念に基づき、多岐にわたる協会の事業を具体的に効率よく実施し、総経費も予算内で行いました。

A. 公益事業

1. 日本写真協会賞の平成25年表彰及び平成26年選考 【表彰委員会】

○平成25年対外発表及び表彰式、展示会の実施

- ・我が国の写真文化活動に顕著な功績が認められた内外の個人、団体をはじめ、前年に優れた作品・評論を発表された方々の中から2月18日に各賞の受賞者を選定した平成25年日本写真協会賞を、4月16日にカメラ記者クラブで対外正式発表しました。又、関係諸機関・一般紙報道機関や公共機関には、ニュースリリースを配布して広く写真愛好家に告知するべく広報活動にも注力しました。
その後、表彰式を、6月3日午後5時より三田の笹川記念会館で開催し、引続き同館レストランで受賞者祝賀会パーティーを東京写真月間レセプションと兼ねて開催し200名の方々に参加いただきました。
- ・受賞作品展は六本木の富士フィルムフォトサロン東京で5月31日～6月6日に開催し、六本木という場所柄もあり、会員や写真愛好家以外にも多くの方々に受賞者の受賞内容を鑑賞いただきました。

○平成25年受賞者及び受賞理由（敬称略、五十音順）

☆作家賞：北井 一夫

1960年代から、独自の視点と写真美に支えられた手法で成田空港反対闘争や農村と都市の日常を捉え、それらの作品を東京都写真美術館「いつか見た風景」展で結実させた。その長年の写真制作活動に対して

☆作家賞：本橋 成一

『屠場<とば>』や新装改訂された『上野駅の幕間』など、国内外で時間をかけて一つのテーマに取り組み、被写体と真摯に向き合って社会の一側面を照らし出す作品を制作し続けてきた。その作家活動に対して

☆新人賞：西野 荘平

無数の小さなプリントを貼り合わせた世界主要都市の俯瞰図「Diorama Map」は、抽象と不思議なリアリティーが混合された独特な世界を表出させた。写真表現の新たな可能性を切り開く、その作品制作活動に対して

☆新人賞：由良 環

比較都市論の視点から世界10都市を定点観測した写真集・写真展「TOPOPHILIA」は、撮影日の時間帯の推移だけでなく都市の歴史まで喚起させ、更に世界認識のあり方をも問いかける。その労作に対して

☆国際賞：受賞者なし

☆学芸賞：上野 修

幅広く柔軟な視点とゆるぎない知識、美意識に基づき、長年にわたり地道な写真評論を展開し、『写真批評 集成』に集大成した。その包括的かつ正統な写真評論活動に対して

☆功労賞：茶谷 茂

プロ用感光材料や写真機材の商品開発、普及活動に従事するとともに、多くのプロ写真家やアマチュアに対する撮影技術指導や東京写真月間の運営、ネーチャー・フォトの振興など様々な活動を通して、写真文化の底辺を拡大することに大いに寄与した功績に対して

☆功労賞：山田 實

戦後沖縄写真界の指導的な存在として庶民の日常生活を捉えた作品を制作する傍ら、復帰以前から日本人写真家の沖縄での作品制作を影で支えた。沖縄を基盤とし、日本の写真文化に独自の軌跡を刻んだ、その永年の写真活動に対して

○平成26年受賞者の選考

平成26年日本写真協会賞の選考は、恣意的な選考に陥らないよう、会員及びノミネーターから昨年末までに候補者の資料を広く収集し、平成26年2月18日（火）、5名の選考委員による「選考会」を開催し、作家賞2名、新人賞2名、国際賞1名、学芸賞1名、労功賞2名、の受賞者を決定致しました。

これを平成26年3月18日開催の理事会に報告し、年度の改まった平成26年4月16日に对外発表。

○選考委員（敬称略、五十音順）

佐藤 時啓	(写真家)
島本 脩二	(編集者)
白鳥真太郎	(写真家・日本広告写真家協会会長)
百々 俊二	(写真家)
松本 徳彦	(写真家)

○平成26年受賞者及び受賞理由（敬称略、五十音順）

☆作家賞： 上田義彦

広告写真で長きにわたり際立った活動を示し、国際的にも高い評価を得る傍ら、Gallery 916 を設立し、近作「Materia」シリーズのみならず広く写真の魅力を伝えている。その旺盛な活動に対して

☆作家賞： 須田一政

40 数年にわたり、日本各地を旅して出会った光景を一貫した作風で写しとめ、それらの作品を東京都写真美術館「風の片」展で結実させた。その長年の写真制作活動に対して

☆新人賞： 齋藤陽道

「感動」「宝箱」ほか、独特の宇宙観を持ち、強く自分の思いを表現した作品は光に満ち、観る者を強く引き込む。その作品制作活動に対して

☆新人賞： 清水哲朗

1997 年からモンゴルへ通い、風景とそこに暮らす人の営みを取材し続け、写真集と写真展に結実させた。国境を越え、人と人を写真の力で結びつけるその活動に対して

☆国際賞： 野町和嘉

世界各地を取材・撮影し、人々の宗教的な祈りの力と普遍的な人間の営みを国内外で発表して日本写真文化の力を知らしめた。その国際的功績に対して

☆功労賞： 久保走一

永年にわたり写真のハード面から学問的研究に携わり、表現と技術の融合に努め、同時に多くの優秀な研究者を送りだしてきた。その功績に対して

☆功労賞： 田沼武能

現役を貫いて精力的に作家活動を続けるとともに、日本写真家協会会長、日本写真保存センター設立推進連盟副代表をはじめとした要職につき、永年にわたり写真界に多大な貢献を果した功績に対して

☆学芸賞： 蔦谷典子

米子市美術館及び島根県立美術館において、「芸術写真」、植田正治、森山大道、亀井茲明、奈良原一高等の充実した写真展を企画、実現させた。その精力的なキュレーター活動に対して

2. 「東京写真月間2013」の開催と「大阪写真月間2013」への協賛 【写真月間委員会】

今年で創設18年目を迎えた「東京写真月間2013」は、当協会及び東京都写真美術館共催、外務省、環境省、文化庁、東京都、バンラデシュ人民共和国大使館、ベトナム社会主義共和国大使館、マレーシア大使館、国連生物多様性の10年日本委員会の後援、25の企業の協賛、YUKI TORII、ベトナム航空の特別協賛、その他多くの協力・特別協力を頂き、5月17日から約6週間にわたって開催し、延べ入場者数42,741人を数え、6月28日好評のうちに終了しました。また地方巡回展には、北海道東川町、大阪府、福島県、長野県池田町、高知県での巡回展示開催いたしました。

○国内展 「水ーいのち・恵み」

総入場者数 14,962名

国内企画展では、周囲を海に囲まれ、国土の約70%が山岳地帯や森からなる日本で、如何に人々や生き物が水とかわかり、水の恩恵を受けているかをテーマに都内4会場で写真展を開催。その後「写真の町」東川町文化ギャラリー7月6日～25日、福島テルサ8月31日～9月10日、高知県立歴史民俗資料館11月19日～26日を巡回致しました。

菌部 澄「水辺の記憶-1950年代を中心に-」

コニカミノルタプラザ・ギャラリーC 5月28日～6月6日 入場者数 6,780名 (10日間)

東京の川は、橋の架設、暗渠化、高速道路の敷地化などによって意識されることが少なくなったが、かつては生活の一部にあった。隅田川の水上市、佃島への渡し舟、川と人々の生活を切り取った作品で、水都・東京の1950年代を振り返る。あわせて、「旅の写真家」と言われた菌部が全国で切り取った水辺の営みを通じて、風土と共生していた日本の生活文化を振り返る写真展。

和田剛一「カワガラス～清流に生きる～」

オリンパスギャラリー東京 5月30日～6月5日 入場者数 1,618名 (6日間)

島国に暮らす私たちの歴史は、海なしに語る事ができない。また私たちの言葉には海にまつわるものが多く、音、風、ことわざや心模様など、目には見えない表現までもが海と繋がっている。生まれたときから海とともに生きているのだ。言葉の海に漂いながら、多様な海の姿に囲まれて五感を解放しようという写真展。

中村卓哉「Umi-Jiten 海の辞典」

エプソンイメージングギャラリーエプサイト 5月31日～6月13日 入場者数 2,564名 (12日間)

夏の午後。梅雨が明けた空には、魚を追い、川へ飛び込む「川ガキ」たちの歓声が似合う。「川ガキ」とは、水辺を遊び場とする子どものこと。かつては日本の至るところに“生息”していた「川ガキ」も、今では数が減少し、貴重な存在になった。川から人が遠ざかり、社会が水辺に対して無関心になればなるほど「川ガキ」も姿を消してきた。「川ガキ」の未来は私たちが水辺環境とどのように関わるかによって決まるといえる内容の写真展。

村山嘉昭「川ガキ」

ペンタックスフォーラム: 6月5日～6月17日 入場者数 4,000名 (12日間)

足に水かきがあるわけでもないのに、巧みに潜り、泳ぎ、水底を歩く。スズメ目の他の鳥たちには、決してまねのできない行動をするカワガラス。高知県の太平洋に流れ出す川を舞台に、カワガラスの生活の一端を撮影。その生き方からは、勇気や力を感じ取ることができる内容の写真展。

○国際展「アジアの写真家たち10周年記念特別写真展-輝けアジア、羽ばたけアジア」

総入場者数 7,631名

2004年からアジア諸国と写真を通じた国際文化交流を行う目的で始めた国際展は10周年を迎え、特別写真展を開催しました。過去の開催国であるバングラデシュ(2004年)、ベトナム(2006年)、インド(2007年)、マレーシア(2009年)の4カ国から、過去に世界報道写真展の審査委員長の経歴を持つシャヒドウル・アラム(バングラデシュ)、フォトシティさがみはらフェスティバルアジア受賞のアミット・メーラ(インド)、ムネム・ワシフ(バングラデシュ)をはじめとした16名の写真家を選び、4カ所のギャラリーで開催しました。

- 「Shine & Fly, Asia!-Section I」

キャノンSタワー2F オープンギャラリー 5月17日～6月13日 入場者数2,431名 (18日間)

- 「Shine & Fly, Asia!-Section II」

銀座ニコンサロン 5月22日～6月4日 入場者数3,000名 (14日間)

- 「Shine & Fly, Asia!-Section III」

ギャラリーコスモス 5月28日～6月9日 入場者数500名 (10日間)

※6月1日にギャラリートーク含む交流会開催

- 「Shine & Fly, Asia!-Section IV」

日本アセアンセンター・アセアンホール 5月28日～6月6日 入場者数1,600名 (15日間)

「アジアの写真家たち 交歓パーティー」

キャノンSタワー3FキャノンホールS ホワイエ 5月30日 出席人数:200名

5名の写真家を招聘し、交歓パーティーで日本の写真関係者と懇親ができたほか、招聘写真家によるギャラリートークを行い、多くの参観者との間で写真表現の狙い、真意などについて熱心な質疑応答が行われました。

○「写真の日」記念 公募による写真展・2013

新宿パークタワーギャラリー3 6月13日～16日 入場者数600名(4日間)
応募人数973名、応募枚数2,446点の中から外務大臣賞・環境大臣賞・優秀賞・協賛会社賞(36社)などの他合計313点展示。

選考委員：清水哲朗、米美知子、(公社)日本写真協会 表彰式：6月15日

「写真の町」東川町文化ギャラリー 7月1日～19日(1,000名、19日間)
富士フォトギャラリー新潟 7月31日～8月10日(11日間)
福島テルサ4Fギャラリー 9月1日～10日(10日間)
HCLフォトギャラリー名古屋 9月18日～9月30日(9日間)
富士フィルムフォトサロン大阪 10月4日～10日(2,608名、7日間)
高知県立歴史民俗資料館 11月17日～25日(9日間)
北アルプス展望美術館(池田町立美術館) 安曇野ギャラリー 12月8日～24日(18日間)を巡回しました。

○「1000人の写真展《わたしのこの一枚》」

新宿パークタワー ギャラリー3 6月8日～12日 入場者数4,375名(5日間)

※会場では撮影者と写真を見る人と自由な雰囲気のもとで写真について語り合っていました。

○企画展「見つけた！撮った！ワンダーランド」

みどりのiプラザ/ギャラリー1 5月18日～6月28日 入場者数1,500名

1.「こどもの目線」写真展2013 1,100点展示 5月18日～6月5日

2.「G サミット2013」 120点展示 6月7日～28日

※5月19日 写真展に参加した子供たちによる日比谷公園内のいきもの撮影会、親子記念撮影実施

○日本写真協会賞受賞作品展

日本写真協会賞受賞作品展は5月31日～6日、東京六本木の富士フィルムフォトサロンで開催しました。

入場者数8,298名(7日間)

○レセプション

6月3日 午後6時30分より三田の笹川記念会館レストランで、日本写真協会賞受賞者祝賀会と兼ねて、東京写真月間レセプションを開催し200名の方々に参加いただきました。

○図録の発行

25年に実施した「東京写真月間2013」を総括した図録を作成して、ご協力いただいた関係機関に配布すると共に関係各国大使館や図書館、美術館、ギャラリー、行政府等の公共機関にも無料提供。

又、「写真の日 記念写真展」入賞者等購入を希望する写真愛好家には一冊2,000円で頒布しました。

この「東京写真月間2013」の開催にあたり、外務省、環境省、文化庁、東京都、バングラディッシュ人民共和国大使館、ベトナム社会主義共和国大使館、マレーシア大使館、国連生物多様性の10年日本委員会のご後援各企業、団体からのご協賛、ご協力をいただきました。

○「大阪写真月間2013」への協賛

大阪の写真文化の向上を目指す「大阪写真月間」は今年で12年目を迎え、下記内容の写真展等を実施しましたが、その趣旨に賛同し協賛金450,000円を協賛して応援しました。

① 小学生のための写真教室「親子で挑戦！モノクロ写真教室」 5月12日 ビジュアルアーツ専門学校

参加人数：11家族16名 一眼レフでモノクロフィルム現像プリント体験。

② 写真家150人の一坪展 5月26日～6月17日 7会場 参加者146名

大阪ニコンサロン、ニコンサロンbis大阪、キヤノンギャラリー梅田、富士フィルムフォトサロン大阪、ビジュアルアーツギャラリー、オリンパスギャラリー大阪、イロリ村[89]画廊

③ 大阪写真月間ハイスクールフォトアワード

6月6日～6月12日 ニコンサロンbis大阪 参加21校173作品

④ 1000人の写真展「わたしのこの一枚」 6月12日～17日 イロリ村[89]画廊 283枚

⑤ シンポジウム「旅×写真=無限大」 6月22日 大阪芸術大学ほたるまちキャンパス

写真家百々新氏と雑誌「風の旅人」編集長佐伯剛氏旅と写真の魅力について対談。参加者140名

3. 国際交流活動 【国際交流委員会】・【写真月間委員会】

① 国際展 「アジアの写真家たち 10周年記念特別写真展—輝けアジア、羽ばたけアジア」

② 2007～2009年に日本写真協会賞新人賞を受賞した北野謙、吉村和敏、石川直樹、前川貴行、屋代敏博、小川康博、佐藤信太郎各氏7名の作品63点をまとめた写真展「Crown on the Earth」を国際交流基金モスクワ暫定事務所の協力を得て、ロシア・ニジニ・ノブゴロド展 4月9日～5月11日 ロシア写真美術館で開催。

また、2010～2012年に日本写真協会賞新人賞を受賞した笹岡啓子、藤岡亜弥、大和田良、村越としや、公文健太郎、斉藤麻子各氏6名の作品60点をまとめた写真展「New Horizons」をロシアで開催した他、駐日コロンビア大使館の協力を得、コロンビアを巡回しました。

<ロシア>

・ペルミ展 3月13日～4月14日 ペルミ近代美術館

<コロンビア>

・バランキージャ展 5月7日～24日 ノルテ大学/5月8日～30日 アドゥアナ・ギャラリー

・ボゴタ展 7月3日～8月3日 ノガル・クラブ、平成26年2月3日～21日コロンビア国立大学
飯沢耕太郎氏による日本の写真に関する講演会・学生向けワークショップ開催（2014年2月26日～28日）

・メデジン展 8月22日～9月30日 EAFIT大学

・トゥンハ展 11月4日～15日 ボヤカ国際文化フェスティバル

・カリ展 平成26年3月3日～4月4日 カサ・プロアルテ

飯沢耕太郎氏による写真関係教授との会談・日本の写真に関する講演会開催（2014年3月1日～4日）

<カザフスタン>

カザフスタンの JTI（日本たばこインターナショナル）とチャリティー財団 Degdar の要請を受け、日本の文化・芸術を紹介する「国際芸術祭」に小川康博、佐々木節子、須釜 聡、名取 洋、敏 龍彦各氏の日本の風景を捉えた作品を展示しました。また顧問の山下洋一郎氏が写真展会場にて、ネイチャーフォトと日本の写真について2回にわたり講演会を開催、現地の写真愛好家が熱心に聞き入りました。

・写真展：9月23日～10月6日 現代美術ギャラリーTengri Umai

・講演会：9月23日、24日 同会場にて

③講演会の開催

平成26年3月15日に林典子氏による講演会「世界の現場から」を JCI16 階会議室にて開催、約40名が、参加しました。内容の一部は平成26年5月号会報に掲載しました。

④第24回 FAPA（アジア写真芸術団体連合）大会に参加

平成26年1月14日から18日まで、マレーシアのペナン島にて FAPA の第24回大会が開催され、日本からは合計7名が参加しました。伝統的な踊りやヒンドゥー教の参拝撮影の他、アジア各国から参加した参加者との交流を持つ機会を得ることができました。

⑤25年度海外派遣研修生希望者の文化庁への提出

11月に応募があった25年度海外派遣研修生希望者7名を文化庁に提出致しましたが、海外派遣研修生の該当者は写真部門からはありませんでした。

4. 写真・映像教育の推進 【写真・映像教育推進委員会】

写真・映像教育の推進事業は、子供達に写真の楽しさ、面白さなど感動と親しみを目的に写真体験教室を実施し、25年度を含めて8年間で、158ヶ所、7,618人が参加しました。

①平成25年度実施状況

「手作りピンホールカメラ写真体験教室」：16ヶ所 参加人数952名

「デジタル写真体験教室」：9ヶ所 参加人数283名 計25ヶ所 1,235名参加

開催場所（主催者）：小学校（12校）、公民館やコミュニティセンターなど（7カ所）、美術館・博物館・文化会館など（6カ所）

②ピンホール写真体験教室

写真・映像教育推進活動が学校関係者にも広く知られるようになり、小中学校の理科、図工や総合的な学習の時間の正規授業として行われる事例も増えており、今回はじめて高等学校の美術授業においてピンホールカメラ実習を行ない、撮影実習だけでなく事前レクチャーとして写真・映像全般について講義を行ないました。

主催イベントとしては、東京都写真美術館と共催で、これまでのモノクロ写真体験教室に代わり、本年度からはピンホール写真教室を実施し小学生の親子60名の参加がありました。

③デジタル写真体験教室

デジタル写真教室では、プログラムの更なる充実を図り25件中9件の写真教室を実施しました。小学生向けの報道写真について学ぶ講座では、インタビュー記事の人物撮影の仕方などを実習しました。また、小学校から依頼を受け学校の周年記念に合わせて「学校の良さを見直し、記録に残す」をテーマとした授業なども実施しました。デジタル教室では、テーマを設けた教室の依頼も増えてきています。子どもたちは自由に色々な被写体を追いかけて、大伸ばしの四切プリントに感動し、撮影意図についても的確な意見発表をする子どもが多く、楽しい体験ができた大変好評でした。

首都圏以外では、本年度も名古屋市科学館や、「大阪写真月間」と協力し大阪会場にてピンホール教室を実施しました。今回はじめて石川県写真館協会の協力を得て、金沢市内の小学校で親子を対象とした教室や、愛媛県内の中学校でも実施しました。

平成25年度も、神奈川県「なるほど！体験出前教室」（神奈川県研究者・技術者等学校派遣事業）の講師として採用され、神奈川県立の養護学校高等部でピンホール写真の授業を行ないました。

また、12月24日に教育支援関係者、教育委員会関係者などが集まる「第7回東京都教育支援コーディネーター・フォーラム」に参加し、プログラムの紹介や、学校支援に関わっている方々と交流を深め、効果的な教育プログラムのあり方等について情報・意見交換を行いました。東京、神奈川など首都圏の教育支援事業として認知度を高め、写真映像教育への関心は大きな広がりを見せています。

5. 日本写真年鑑の発行 【出版広報委員会】

1958年（昭和33年）に創刊の、「日本写真年報」は編集発行事業を《不特定多数の利益の増進》に資する公益事業とすべく年間の写真活動が長年にわたって継続集約された国内唯一の資料となっており、写真関係者はもとより、諸官庁、報道機関、教育機関、美術館、図書館など広く各方面より好評を得ています。2013年版からは「日本写真年鑑」と名称変更し、約2倍に増ページして従来の写真業界の年報としての機能に年間を通じて写真界の幅広い情報を掲載。さらに一般読者に興味を持っていただけるような話題を盛り込み、2012年の写真活動状況をつぶさに記録すると共に、将来を展望する内容を追加。本書により老若男女すべての読者にとって、写真を通じて新たな発見が得られるよう2013年版・第56巻を6月初旬に、発行致しました。

B. 共益事業

1. 会報の発行 【出版広報委員会】

25年度は、季刊として年4回、5月・8月・11月・2月に453号～456号を発行し、各時点における協会の活動や今後の計画、写真文化情報などを紹介しました。

・主要掲載記事

夏号：日本写真協会賞受賞者決定、「写真月間2013」開幕、「東松照明さんの死去」、「フォトブックを楽しもう」

秋号：日本写真協会賞新人賞受賞者・作家賞受賞者対談、「写真月間2013」閉幕

冬号：「植田正治の魔法」、「植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ」展、「ジョセフ・クーデルカ展について」
「ジョセフとの思い出」「変りゆく写真とともに」

春号：「桑原甲子雄にみる昭和史」、「桑原甲子雄とカメラ」、「PARIS PHOTO 2013 とパリの写真イベント」、
「わくわくおどろき！写真体験教室」、「デジタルカメラの今」

2. 日本写真協会賞受賞祝賀会 兼 叙勲・褒章祝賀式典 兼 東京写真月間レセプション 開催

【総務委員会・東京写真月間委員会】

6月3日「写真の日」に笹川記念会館において、日本写真協会賞表彰式及び当該年度の写真界における叙勲・褒章祝賀式典を行ない、引続き受章祝賀会と東京写真月間レセプションを共同開催。会員の親睦を図る意図も含め「写真の日」事業の一環として開催しました。200名の方々に参加いただきました。

C. 法人運営事業

1. 公的機関が主催（共催）する写真コンテストへの審査協力 【総務委員会】

公益社団法人に移行後、公的機関からの写真コンテスト等の運営・審査等の相談及び協力依頼があり、平成25年度にインターネットを使って公募した下記のコンテストの運営・審査に協力しました。

- ① 2013 韓日フォト&エッセイコンテストの写真部門（主催：駐日本国大韓民国大使館）
11月29日～12月19日
- ② 「和食」の魅力コンテストの写真部門（共催：農林水産省） 12月27日～2014年3月15日

2. 理事会・総括委員会の開催 【総務委員会】

4月26日の第1回通常理事会において、平成24年度事業報告、貸借対照表および損益計算書の承認、役員任期満了に伴う改選、役員報酬の支給方法、定時社員総会開催内容を決定いたしました。また、6月17日に第2回通常理事会を実施し、代表理事会長、理事副会長、業務執行理事、名誉顧問、顧問の選任他を決定致しました。

平成26年3月18日に第3回通常理事会を開催、平成26年度事業計画、平成26年度予算を承認致しました。

また、奇数月の5月、7月、9月、11月、1月、3月の6回、2ヵ月間の事業報告及び財務状況を代表理事会長、理事副会長に各委員会委員長が報告する総括委員会を開催。

3. コンプライアンス 【コンプライアンス委員会】 【総務委員会】

平成26年3月17日 コンプライアンス委員会開催（大平業務執行理事、井沢理事、上田理事、松本理事）し、平成25年度は、当協会でも問題となる事項はなかったことを確認。平成26年度は当協会の情報開示のあり方や理事選出のシステムについての構築を提言した。

4. 展覧会等の後援 【総務委員会】

当協会は公的機関や学校教育機関、マスコミ、写真関係団体等が主催し、内容が文化、教育、国際交流に寄与する写真展等に対して後援・協賛・協力を行っていますが、平成25年度は以下の催事をバックアップしました。

No.	申請者	写真展名	会期・場所
1	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら2013	4月1日～平成26年3月31日 相模原市民ギャラリー他
2	フォトグループ「いぶき」代表 大木島 毅	フォトグループいぶき写真展「四季のいぶき」	4月5日～11日 富士フィルムフォトサロン
3	社団法人 日本文化協会	第28回全国盲人写真展	5月20日～25日 東京新宿モノリスビル
4	坂本貴光	坂本貴光写真展「武の美」	5月31日～6月30日 ベルリン Photocultur
5	礼文町観光協会	2013 彩北航路フォトコンテスト	募集：6月1日～9月30日 催事場所：利札航路
6	JFUN	齋藤治子写真展「BERLIN FACES Berlin hat viele Gesichter」	6月7日～22日 SHINSEIDO TOKYOBERLINARTBOX（ドイツ・リン）
7	朝日新聞社	世界報道写真展2013	6月8日～8月4日 東京都写真美術館、8月6日～15日 大阪・ベネッセホール、9月18日～10月13日 京都・立命館大学国際平和ミュージアム、10月15日～31日 滋賀・立命館大学びわこくさつキャンパス、11月3日～17日 大分・立命館アジア太平洋大学

No.	申請者	写真展名	会期・場所
8	株式会社プロメディア	PHOTONEXT 2013	6月25日～26日 東京ビッグサイト・西4ホール
9	公益社団法人日本広告写真家協会	第5回「全国学校図工・美術写真公募展」	7月19日～11月29日(応募受付)、展示:東京都写真美術館(平成26年3月1日～16日)
10	東川町写真の町実行委員会	第29回東川町国際写真フェスティバル	8月6日～9月4日 東川町町内一円
11	一般社団法人 日本現代写真家協会	「ピンホールカメラで写真を撮ろう！」	8月10日 豊田市視聴覚ライブラリー
12	岩橋崇至写真展実行委員会	岩橋崇至写真展「大地の貌」	8月12日～26日 松本市美術館 市民ギャラリーA
13	株式会社デイズジャパン	DAYS フォトジャーナリズム祭 in YOKOHAMA2013	8月16日～27日 横浜赤レンガ倉庫1号館2F
14	学校法人 日本放送協会学園	第20回NHK学園「旅の写真展」	8月21日～26日 みなとみらいギャラリー(横浜)
15	日本山岳写真協会	2013山岳写真フェスティバル	8月31日～9月7日 東京都美術館 公募展示室・講堂他
16	株式会社シー・エム・エス	御苗場	9月20日～23日 京セラドーム大阪 スカイホール
17	公益財団法人 土門拳記念館	写真展「わたしのこの一枚」	10月1日～20日 土門拳記念館
18	クレヴィス	写真展「昭和」 写真家が捉えた時代の一瞬	10月2日～7日 日本橋三越本店
19	一般社団法人 日本現代写真家協会	JMPA 第5回会員写真展名古屋展	10月8日～13日 名古屋市民ギャラリー栄
20	「こっぽんー大使たちの視線」写真展実行委員会	「こっぽんー大使たちの視線2013」写真展 “Japan through Diplomats’ Eyes”	10月9日～15日 六本木ヒルズ ヒルズカフェ、11月15日～24日 名古屋セントラルパークギャラリー、12月5日～平成26年1月25日 ひょうご国際プラザ 交流ギャラリー
21	株式会社デイズジャパン	「第10回DAYS国際フォトジャーナリズム大賞」	応募期間:10月～平成26年1月15日
22	Foto Club Azteca Nippon 篠原誠二	第4回「日墨文化交流写真展」	10月19日～30日 Galeria Digital Epson
23	長野県生まれの写真家たち代表 木之下晃	「写真州 長野県生まれの写真家たち」	10月30日～12月1日 北野美術館分館 北野カルチュラルセンター、平成26年1月30日～2月5日 ポートレートギャラリー
24	篠原誠二	日墨交流400周年記念写真展「メキシコの中の日本」	11月27日～30日 グアナファト大学
25	一般社団法人 日本現代写真家協会	「ピンホールカメラで写真を撮ろう！」	12月15日 京都市立第三錦林小学校 体育館
27	あなたが伝えたい「和食」の魅力コンテスト事務局	あなたが伝えたい「和食」の魅力コンテスト	応募期間:12月27日～2014年2月7日 名義使用期間:12月26日～平成26年3月31日
28	郡山北ロータリークラブ	「将来に残したいもの・風景」(写真部門) / 「郡山市の未来像」(CG部門) コンテスト	応募期間:平成26年2月3日～28日、展示期間:平成26年4月1日～6日、展示場所:ビッグ・アイ 6F展示場(郡山駅前)
29	一般社団法人カメラ映像機器工業会	CP+ 2014 (Camera & Photo Imaging Show)	平成26年2月13日～16日 パシフィコ横浜
30	日本放送協会学園	「第24回NHK学園生涯学習写真展」	平成26年2月21日～27日 富士フィルムフォトサロン 東京
31	財団法人日本ダウン症協会	「ダウン症 家族のまなざし -Shifting Perspectives-」展	平成26年3月21日～30日 伊藤忠青山アートスクエア

附属明細書

該当事項がないため、記載を省略しております。

以上